



『0円で会社を買って、死ぬまで年収1000万円』 | おすすめの1冊



数あるビジネス書や経済小説の中から、M&A online編集部がおすすめの1冊をピックアップ。M&Aに関するものはもちろん、日々の仕事術や経済ニュースを読み解く知識や教養として役立つ本も紹介する。

 ・・・・・

『0円で会社を買って、死ぬまで年収1000万』 奥村 聰著、光文社新書

普通のサラリーマンの自分に社長なんか務まるのだろうか？ 誰もがこんな疑問を抱くに違いない。会社勤めをやめて独立するとなれば、「起業」の2文字が思い浮かぶが、本書がサラリーマンの新たなチャレンジとしてすすめるのは「継業スタートアップ」だ。

中小企業の後継者難に伴い、クローズアップされているのが事業承継問題。次の世代に会社を引き継がせる取り組みの中でも、第三者の個人がその会社に入って新たな経営者となるタイプの事業承継は「継業」と呼ばれる。

ゼロからの起業と違って、事業承継や継業というと、どことなく先代社長がやってきたことをそのまま引き継ぐといった受け身なイメージがある。そこで、起業や投資といった主体的な意味を含めた独自ネーミングの「継業スタートアップ」を提案する。

では、個人が買い手となる場合、どんな会社がターゲットしてふさわしいのだろうか。後継者がいないといった理由で手放される会社を手に入れるのが最良の方法で、会社のサイズとしては、中小企業でも小さめの年商で数千万円、大きくても2億円未満が狙い目だという。

経営状態や事業のポテンシャルにもよるが、数百万で会社が買える場合がある。これなら個人でも資金を準備できる範囲だ。時には、買い取るのではなく、無料で譲られることもあるという。会社をいくらで購入するか、買いたい会社をどうやって探すのか、そのためにノウハウやヒントを随所に織り込んでいる。

自分がオーナー社長になることは容易に想像しづらいが、ある程度の会社でサラリーマンとして実績を積んできた人ならば、十分にマネジメント可能だと断言する。

といわれても、気になるのは本書のタイトルにあるように「年収1000万円」の安定した収入を得られるかということ。社長として会社を成長させるための秘訣を伝授する、それが本書の真骨頂でもある。

著者の肩書は事業承継デザイナー・司法書士。後継者不在や社長の死亡、財務状況の悪化など、存続の危機にある中小企業700社以上を支援し、「社長のおくりびと」の異名を持つ。

組織の中で埋もれていたり、定年後を見据えてシフトチェンジを考えるサラリーマンに贈る一冊。だが、センセーショナルなタイトルとは裏腹に、「継業なんていかがですか？」と抑制を利かせつつ、耳元

でささやくように文章がつづられている。（2019年4月発売）

M&A online編集部